

# いきま しゅ 池間ぬ主

(二揚げ)

1. <sup>うぶていだ つつ</sup>大太陽と<sup>あ んみ</sup>月がなす <sup>あ んみ</sup>上がり参や<sup>びてい</sup>ずあ一つい

<sup>ばん しゅ</sup>我が主と<sup>うやんま うむ</sup>親母と<sup>びてい</sup>が思<sup>びてい</sup>っずざ一つい

ソーニヨイサッサイ

2. <sup>いきま しゅ</sup>池間ぬ主や<sup>しゅぬぶやく</sup>首里大屋子 <sup>いきま みざす</sup>池間目差さ<sup>いきま しゅ</sup>池間ぬ主

<sup>ば かな むさうや</sup>我が愛す<sup>みざす</sup>武佐親や <sup>みざす</sup>すぐ目差よ

3. <sup>いきま しゅ</sup>池間ぬ主が<sup>うやき だい</sup>富貴 <sup>うやき</sup>大んなびるます<sup>うやき</sup>富貴

<sup>うぶや とーづあ ふ</sup>大家台所 <sup>たーら</sup>葺かまいすてい<sup>うやき</sup>俵や<sup>うやき</sup>びだつ

<sup>いきま しゅ</sup>池間ぬ主が<sup>ふに</sup>船が<sup>だい</sup>まよ <sup>に ず ふに</sup>大んな荷積う<sup>ふに</sup>船が<sup>ふに</sup>まよ

4. <sup>ふなく ゆ</sup>池間ぬ主が<sup>ふなく</sup>船が<sup>ふなく</sup>まよ <sup>ふなく</sup>大んな荷積う<sup>ふなく</sup>船が<sup>ふなく</sup>まよ

船子数み <sup>ふなく</sup>みりば七ぬ船子

太陽と月が昇ってくるのはひとつのところから

私たちの島長と奥様の思いはひとつ

池間の主は首里大屋子 池間目差は池間の主

尊敬する武佐親はすぐに目差主になる

池間の主は裕福だ 本当に裕福だ

母屋も台所も建てられ 俵を積み上げている

池間の主の船は荷物を沢山積める頑丈な船だ

船子を数えてみると7人だ

## < 参考掲載 >

5. <sup>いきま しゅ</sup>ばんまい池間ぬ主やらば

<sup>ばんま</sup>ばんまい<sup>うや</sup>離りぬ親やらば

<sup>いきまやどつくい</sup>池間宿付<sup>にいむぬふあ</sup>ミガガマが<sup>いむぬふあ</sup>煮物食い<sup>いむぬふあ</sup>みゆば

6. <sup>かんみゃ う</sup>神屋ん居<sup>う</sup>ずきやぬミガガマよ

<sup>ばなさ</sup>花咲き<sup>う</sup>ど居<sup>う</sup>ずたずが

<sup>うぶうややー</sup>大親家<sup>からばずまゆぐわ</sup>んかい<sup>からばずまゆぐわ</sup>行きたり<sup>からばずまゆぐわ</sup>やど<sup>からばずまゆぐわ</sup>う灰猫小よ

7. <sup>からばずいんぐわ</sup>灰猫小やらばんつあ

<sup>うぶうやしゅ</sup>灰犬小<sup>ついで</sup>やらばんつあ

<sup>うぶうやしゅ</sup>大親主が<sup>ついで</sup>肝ん<sup>ついで</sup>じゃあ<sup>ついで</sup>んすな<sup>ついで</sup>あち<sup>ついで</sup>からよ

私が池間の主だったら

私が離れ島の領主だったら

池間の主の家に居る賄い婦ミガガマの料理を  
たべてみたい

神屋にいたころのミガガマは

花が咲いたように美しかったが

大親の家に行ってから灰かぶりの猫のようだ

灰かぶりの猫だろうと

灰かぶりの犬だろうと

大親の気持ちには添い従っていればよい

## < 解説 >

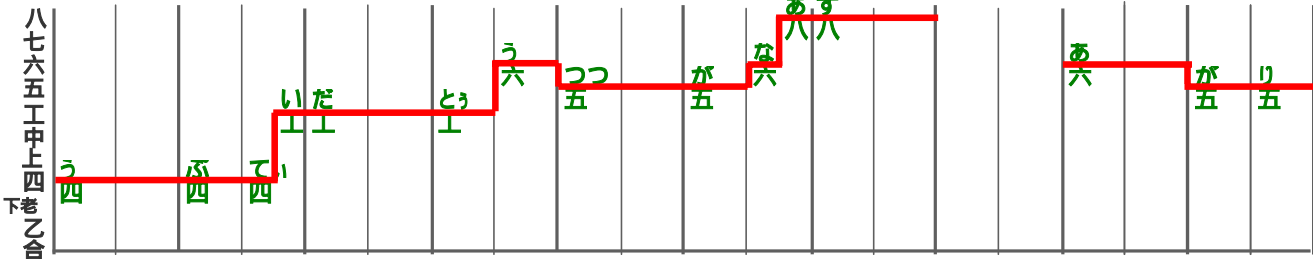
池間島の役人を褒め称え、後半ではその賄い婦ミガガマを妬みから皮肉っています。

< 宮古 >

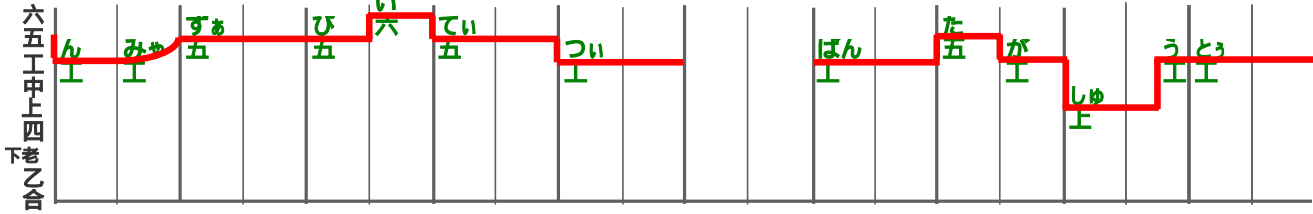
池間ぬ主(二揚げ) 歌:老 四 上 工 五 六 八

四 合 四 工 上 工 六 五 工

う ぶ ていいだ と う つつ が なあす  
いき まぬうしゅ や あしゅぬ が ば や ああき  
いき まぬうしゅ が ああふに が あまあよ  
いき まぬうしゅ が ああふに が あまあよ

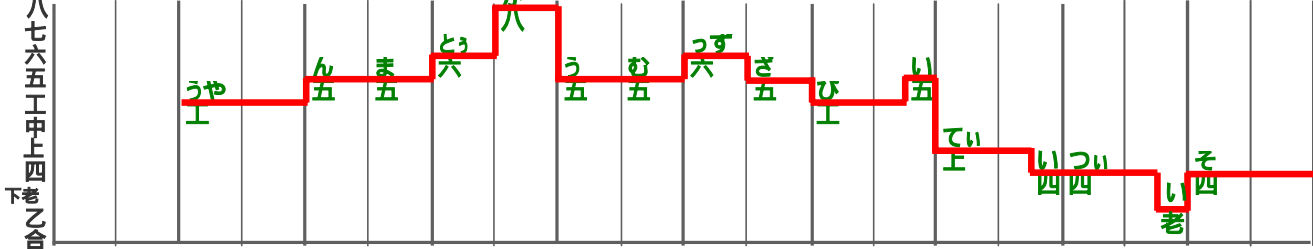


ん みやずあ び い てい つい ばん た が しゅ うとう  
み ざ す さ び い き ま ぬ しゅ ば た が か な っ  
び ざ る ま す う っ や き ぶ ぶ や あ っ っ づあ  
に い ず う ふ に い が ま よ ふ な く ゆ う み

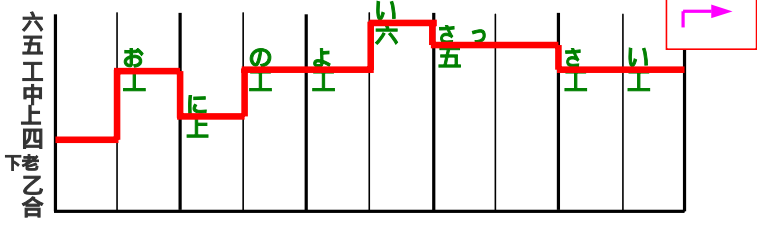


合 工 五 六 五 六 五 工 上 四 合

うや ん ま と が う む っずざ ぶい いてい いつい いそ  
む さ う や や す ぐ み ざ あす うよ お  
ふか ま い す て いた ら や び いだ あつ っ  
み り ば あ な な ぬ ふ う な あ く う



四 工 上 工 六 五 工  
お に の よ い さ っ さ い



1. 大太陽と月がなす 上がり参やずあーつい 我たが主と 親母とが思っずざーつい ソーニノイサッサイ
2. 池間ぬ主や首里大屋子 池間目差さ池間ぬ主 我が愛す武佐親や すぐ目差よ
3. 池間ぬ主が富貴 大んなびるます富貴 大家台所 葺かまいすてい俵やびだつ
4. 池間ぬ主が船がまよ 大んな荷積う船がまよ 船子数み みりば七ぬ船子